

# 第35回大会

日時・平成3年8月7日、8日、9日

コース・霞ヶ関カンツリー倶楽部・西コース

(男子6,682Y・パー72 女子6,173Y・パー72)

## ●男子の部●

- ※① 原口 鉄也 (学館浦安) 36・35(71) 38・33(71) 36・36(72) 214
- ※② 原田 周治 (瀬戸内) 37・36(73) 35・37(72) 36・35(71) 216
- ② C・ウメツ (ハワイ) 37・34(71) 36・38(74) 34・37(71) 216
- ② 今野 康晴 (学館浦安) 34・38(72) 36・36(72) 36・36(72) 216
- ※⑤ 馬場 聖二 (明中八王子) 36・39(75) 35・36(71) 37・36(73) 219
- ⑥ 杉本 周作 (平安) 40・36(76) 39・37(76) 34・35(69) 221
- ⑦ 宮嶋 直 (土浦日大) 36・37(73) 36・36(72) 38・39(77) 222
- ⑧ 高橋 竜彦 (冲学園) 40・35(75) 36・37(73) 40・35(75) 223
- ⑧ 山本 元成 (平安) 37・36(73) 40・37(77) 37・36(73) 223
- ⑧ 南 太敦 (PL学園) 36・37(73) 35・36(71) 41・38(79) 223

## ●女子の部●

- ① 福嶋 晃子 (白鷗女子高) 36・36(72) 37・36(73) 145
- ※② 菊地あつ子 (堀越高) 37・37(74) 37・36(73) 147
- ③ 坂上 晴美 (名大附高) 39・38(77) 35・38(73) 150
- ※④ 高村 茶恵 (熊本中央女子高) 38・42(80) 36・36(72) 152
- ⑤ 中野 陽子 (堀越高) 36・39(75) 38・41(79) 154

女子の部で福嶋選手が平瀬真由美(現プロ)以来、史上2人目の3連覇をなし遂げた。260ヤードの女子高校生離れた豪快なドライバーを武器にV3の重圧をハネ返した。男子は原口選手がハワイのウメツ選手らの追い上げをかわして初優勝。

# 第36回大会

日時・平成4年8月5日、6日、7日

コース・霞ヶ関カンツリー倶楽部・東コース

(男子6,954Y・パー72 女子6,064Y・パー71)

## ●男子の部●

- ※① 国吉 博一 (日体荏原) 36・34(70) 39・35(74) 35・35(70) 214
- ② 高橋 竜彦 (冲学園) 38・36(74) 37・36(73) 36・35(71) 218
- ③ 大桑 暢之 (大阪桐蔭) 38・39(77) 34・39(73) 33・36(69) 219
- ③ 澤村 英樹 (埼玉栄) 39・36(75) 33・40(73) 36・35(71) 219
- ⑤ 古庄 紀彦 (日大一) 37・36(73) 35・44(79) 31・37(68) 220
- ※⑤ 米倉憲太郎 (長崎日大) 37・34(71) 34・38(72) 40・37(77) 220
- ⑦ 根本 昌英 (水城) 36・40(76) 35・37(72) 39・35(74) 222
- ⑧ 上田 成人 (行橋) 39・35(74) 34・39(73) 39・38(77) 224
- ⑧ 植村 一 (れいめい) 34・35(69) 40・35(75) 39・41(80) 224
- ⑧ 石井 靖信 (PL学園) 36・34(70) 38・39(77) 36・41(77) 224

## ●女子の部●

- ① 西 麻里 (中京商高) 38・39(77) 37・35(72) 149
- ※② 中島 真弓 (山梨英和高) 39・36(75) 38・37(75) 150
- ③ 萩尾 美穂 (柳川高) 38・39(77) 37・37(74) 151
- ④ 大竹 康子 (佐野日大高) 38・40(78) 38・36(74) 152
- ⑤ 菊地あつ子 (堀越高) 37・37(74) 40・39(79) 153

九州出身者が揃った男子の最終組。前日までトップを走る米倉選手を持ち前の勝負強さで逆転したのは沖繩・石垣島出身の国吉選手だった。昨年の覇者・原口選手は腰痛のため途中棄権。女子は西選手が2度のチップインを決め強豪を逆転した。

# 第37回大会

日時・平成5年8月11日、12日、13日

コース・霞ヶ関カンツリー倶楽部・東コース

(男子6,954Y・パー72 女子6,064Y・パー72)

## ●男子の部●

- ※① 国吉 博一 (日体荏原) 34・36(70) 36・37(73) 38・39(77) 220
- ② 松崎 俊一 (水城) 37・38(75) 37・39(76) 33・38(71) 222
- ※③ 桧垣 豪 (箕面自由) 34・31(71) 37・40(77) 36・41(77) 225
- ※④ 杉原 亘 (水城) 40・35(75) 37・41(78) 37・36(73) 226
- ⑤ 根本 昌英 (水城) 36・41(77) 39・36(75) 37・38(75) 227
- ⑤ 星野 英正 (仙台育英) 38・37(75) 38・39(77) 38・37(75) 227
- ※⑦ 米倉憲太郎 (長崎日大) 39・31(80) 40・39(79) 38・41(79) 228
- ⑧ 木村 友栄 (東北) 36・40(77) 39・39(78) 37・38(75) 229
- ⑧ 宮崎 晃一 (大口) 36・37(73) 41・38(79) 39・38(77) 229
- ⑩ 南川 史雄 (大体大浪商) 37・42(79) 38・39(77) 36・38(74) 230
- ⑩ 岡野 英身 (埼玉栄) 38・39(77) 37・39(76) 36・41(77) 230

## ●女子の部●

- ① 韓 熙 圓 (韓国大清中) 38・41(79) 39・35(74) 153
- ※② 中野 陽子 (堀越高) 44・37(81) 37・37(74) 155
- ※② 中島 真弓 (学館浦安高) 37・40(77) 40・38(78) 155
- ② 小川 愛 (仙台育英高) 36・40(76) 40・39(79) 155
- ※⑤ 東尾 理子 (帝京高) 41・41(82) 37・38(75) 157

女子の部で史上初めて韓国選手が優勝した。韓国国家代表で国内ジュニア大会3冠王の韓選手は春の大会に続く連覇で実力を見せつけた。男子は国吉選手がピンチを耐えて逃げきり、史上7人目の連覇を達成した。